

## 昆虫類

今回は126科427種が確認されました。

### ●里山(穂谷・尊延寺地区)

里山の代表的な種はほとんど確認できました。ハルゼミやネキトンボ、タイコウチ、ウマオイの仲間などです。しかし、良好な里山環境を示すと考えられるミドリシジミの仲間はアカシジミだけでした。

### ●淀川

キリギリス、コオロギ、バッタの仲間が確認されています。第1回調査で河川敷で確認されたセアカオサムシ、ツシマヒラタシデムシ、ジウクホシテントウ、クロスジチャイロテントウは確認できず、公園化やヨシ原の減少などが原因と考えられます。

### ●小川、ため池、湿地

ナニワトンボ、ネキトンボ、ヤスマツアメンボ、イトアメンボが確認されています。いずれも絶滅危惧種で、これらの生息環境であるため池の保全が重要な課題です。ヘイケボタル、ゲンジボタルも確認されましたが、第1回調査に比べると確認地点は少なくなっています。



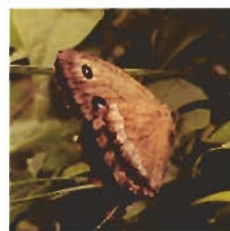
ナニワトンボ



ナツアカネ



オジロアシナガゾウムシ



ジャノメチョウ



ツバメシジミ



ミヤマセセリ



イチモンジセセリ



ハムシの仲間



ダイミョウセセリ



ネキトンボ



ツマグロヒョウモン



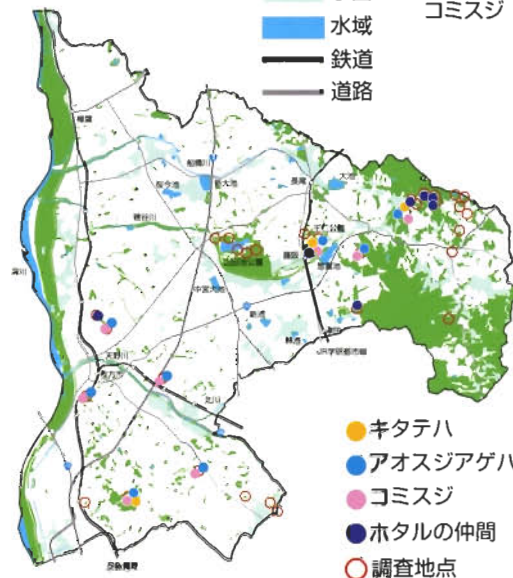
エダナナフシ



コムスジ

### 凡例

- 緑地
- 水田
- 水域
- 鉄道
- 道路



## 鳥類

今回は30科90種が確認され、第1回調査から合わせると38科148種になりました。

### ●里山(穂谷・尊延寺地区)

クマタカ、オオタカ、サシバなどの猛きん類がこの地区を特徴づけ、昆虫、カエル、ヘビや小鳥などの餌が豊富で、それらの繁殖を支える樹林、水田(湿地)、畑が存在することを示しています。穂谷だけで出現した種は、フクロウやアオゲラ、オオルリやキビタキ、サンコウチョウ、ホトギス、キジなどです。

### ●淀川

ヨシ原に生息する鳥類の生息環境を形成。今回調査で新たに確認されたミサゴ、タゲリ、セイタカシギ、ミヤマガラスは、いずれも河川敷で見つかっています。

### ●河川、ため池

冬は、渡り鳥のカモが多く確認されました。ホシハジロ、ミコアイサを除いて水面採餌カモが多いことが特徴。カモ池として有名な山田池とともに、確認種数の多かった新大池は、水辺の鳥の重要な越冬地となっています。カワセミは非繁殖期の冬季調査で毎回確認されましたが、繁殖場所は限定されています。



カワセミ



ヒヨドリ



ハクセキレイ



バン



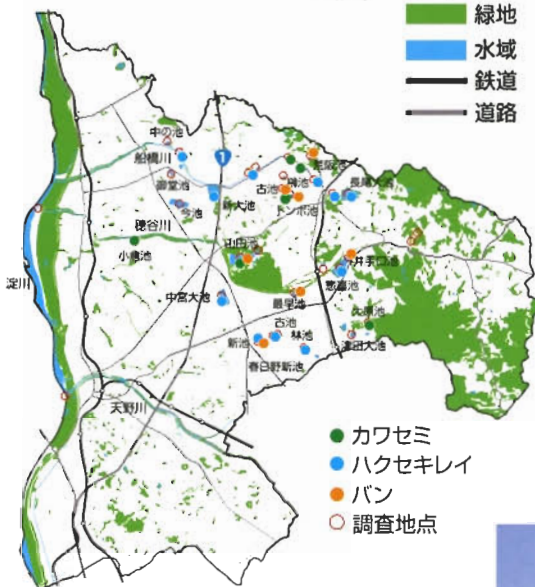
ダイサギ



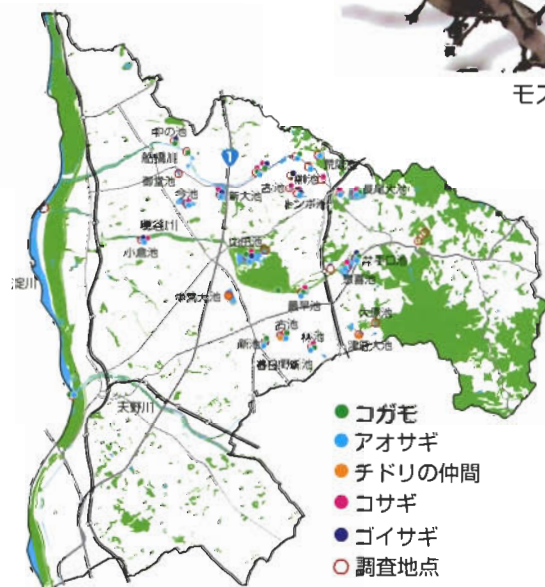
アオサギ



モズ



コサギ



## 魚類 (エビ・カニを含む)

今回は、淡水魚類11科31種、甲殻類(エビ・カニ)6種が確認されました。大阪府内の生息調査で、枚方市では比較的良好に確認されているメダカは、河川や水路に比べると、ため池では見つかりにくかったようです。メダカに似た外来種のカダヤシに生息が圧迫されているとも考えられています。



メダカ

### ●河川

船橋川、穂谷川、天野川の合計で33種、河川別ではそれぞれ21種、19種、26種。各河川で出現頻度の高かったのは、メダカ、ドンコ、モツゴ、アメリカザリガニでした。



タウナギ

### ●ため池

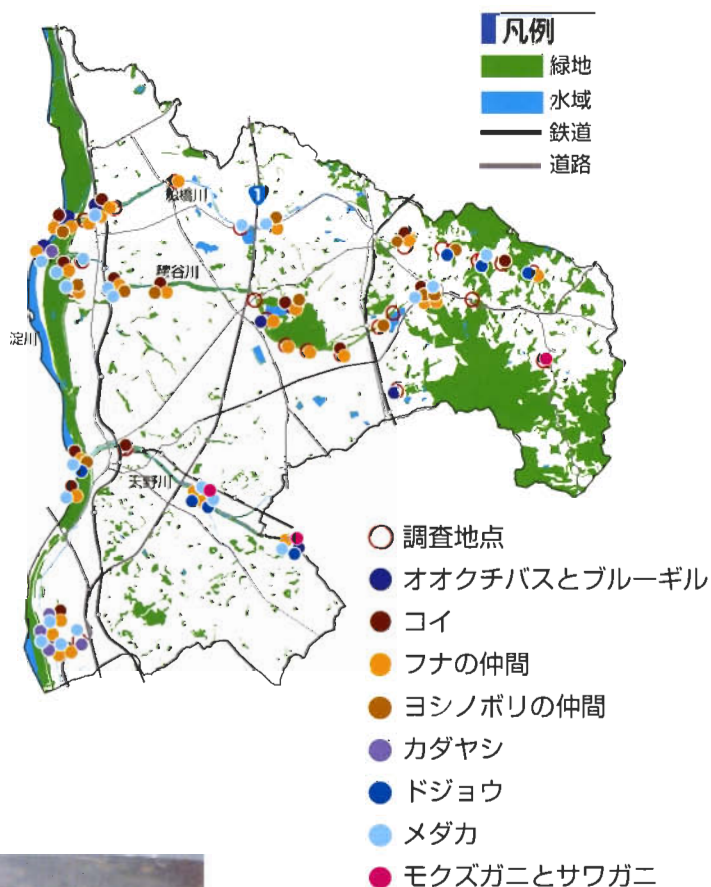
計14種を確認。対象は、尊延寺の小さなため池3か所と市街地に近いため池5か所(山田池、大峰北町2丁目、長尾大池、地蔵池、最早池)。山田池のように面積が広く多様な環境のため池で、出現種が多い傾向にあります。出現頻度の高い種は、スジエビ、アメリカザリガニ、コイ、モツゴ。ほかにテナガエビ、ウキゴリ、カムルチーがみられています。

### ●市街地水路

計13種を確認。高い頻度で確認された種は、メダカ、フナ類、カダヤシ、モツゴです。

### ●淀川河川公園内の池

ミナミヌマエビ、アメリカザリガニ、コイ、メダカなど8種が確認されています。



オイカワ



ドジョウ